

令和8年度和歌山県文化表彰・名匠表彰受賞記念展

和歌山県文化表彰・名匠表彰を受賞された方の業績を讃え、活動成果を広く県民に知っていただくための記念パネル展を開催します。ぜひこの機会に、本県が誇る受賞者の優れた（文化・名匠の）世界に触れてみてください！！

○文化表彰受賞者

令和元年度文化功労賞

はやし まさひこ
林 雅彦（国文学者）



国文学者として、本県の宗教文学、宗教画研究に大きく貢献。特に、熊野信仰の全国各地への勧進に一役かった「熊野比丘尼」に関する研究を行い、熊野信仰の構造解明に大きく寄与した。また、熊野のもつ豊かな自然・歴史・文化を発信することを目指した国際熊野学会の代表委員を長年務めるなど、地域振興にも功績を残している。

令和3年度文化功労賞

ただ かよこ
多田 佳屯子（声楽家）



声楽家として、50年以上の長きにわたり、オペラ文化や音楽の素晴らしさを広める活動を続けてきた。和歌山市民オペラ協会の代表として、オペラの企画・演出・出演のほか、若手の指導にも尽力し、和歌山県新人演奏会及び和歌山音楽コンクールの声楽部門の審査員を長年務めるなど、声楽家の育成にも貢献している。

令和4年度文化功労賞

みやにし てるお
宮西 照夫（医学者）



医学者として、48回にわたる現地訪問調査のもと、マヤ文明を日本に紹介し、文化とところの病をテーマに調査研究活動を続けてきた。特に日本の文化結合症候群の一つと考えられる社会的ひきこもりについて、回復支援プログラムを開発し、40年以上にわたり若者とその家族を支援するなど、文化と社会の向上発展に寄与している。

令和5年度文化功労賞

まつやま かおる
松山 馨（歌人）



歌人として、70年以上の長きにわたり、短歌の創作を続けてきた。情愛豊かな作品の数々を歌集として発表する一方、和歌山短歌会の代表として、また、毎日新聞の紀州歌壇選者、和歌山県歌人クラブ会長等、様々な立場から短歌を愛する同志を育成し、短歌の普及、向上発展に寄与している。

令和5年度文化奨励賞

きのした ゆういち
木ノ下 裕一
（補綴家、ドラマトウルク）



補綴家、ドラマトウルクとして、自ら立ち上げた木ノ下歌舞伎による「勸進帳」が文化庁芸術祭新人賞を受賞するなど、高い評価を受けている。古典演目の歴史について、過去の資料を徹底的に調べ上げ、テキスト化し演出を完成させる姿勢は、まさに古典を現代に蘇らせるものであり、今後も更なる活躍が期待される。

令和5年度文化奨励賞

きしゅう みんわ
**紀州の民話をオペラに
実行委員会**
（アマチュア音楽劇団）



和歌山の民話や史実にもとづく物語をオリジナルの音楽劇として上演している。出演者はプロのみならず、大学生、少年少女など多岐にわたり、また、手話通訳や音声ガイドを率先して用意するなど、誰もが心地よく楽しめる多様性溢れる舞台を制作しており、今後も未永い活動に大きな期待が寄せられている。

○名匠表彰受賞者

令和6年度名匠表彰

ふくがた やす お
福形 泰緒（位牌製作）



位牌の製作に長きにわたり、精励してきた。氏は「杖ヶ藪流」と「高野流」という、位牌製作における二流派の伝統技法を継承した、国内でも数少ない職人である。また、技法を図面や映像で記録するなど、技術の保存・継承に尽力しており、技術を後世に引き継ぐために非常に重要な役割を果たしている。



令和7年度名匠表彰

かなさき あきひと くらちく
金崎 昭仁（黒竹製作）



黒竹の製作に長きにわたり、精励してきた。かつて黒竹の生産が盛んであった日高町原谷地区では、現在、氏が代表を務める工房が国内唯一の黒竹生産工房となっている。また、地域の小・中学生を対象とした体験学習や2025年大阪・関西万博への出展などを通じて後継者の育成や技術の継承にも力を注いでいる。



催しの内容

令和8年度和歌山県文化表彰・名匠表彰受賞記念展

会期 令和8年7月1日(水)～7月6日(月)
9時30分～17時(最終日は15時)

入場無料

場所 和歌山県民文化会館 特設展示室

主催：和歌山県

実施場所の案内

和歌山県民文化会館（和歌山市小松原通一丁目1番地）

TEL：073-436-1331



● お問い合わせ

和歌山県文化学術課

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1

TEL：073-441-2050 FAX：073-436-7767

E-Mail：e0221001@pref.wakayama.lg.jp

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022100/index.html>